



背景

多様性の高い就労現場では、「曖昧な言動が伝わらないこと」などのコミュニケーション上の問題があるといわれています。会議中の業務指示を曖昧に表現することによる会話の行き違いは、時として大きなトラブルに発展します。

成果の概要

曖昧な表現を検出することで話者の気づきを促し、さらに聞く人に伝わりやすい明確な表現の候補を提示することで、曖昧な表現を使わないよう配慮することを支援するシステムです。曖昧な表現によるコミュニケーションのすれ違いを減らすことで、業務の円滑な遂行に貢献します。

1) 曖昧表現検知技術による 気づき支援

- 発言に対して音声認識を行い曖昧表現を検知
- 検知結果をユーザに提示

「多め」
曖昧な表現です。

2) 曖昧表現訂正支援

- 指摘された言葉に対し、具体的な置き換え候補や表現方法を提示
- 発言者自身の曖昧表現訂正の支援

【多め】

- (1) 具体的な数量を記載しましょう
- (2) 比較対象を示しましょう

オフィスコミュニケーション共感ナビ



曖昧表現辞書

- コミュニケーション中の曖昧な表現の気づきを促し、言い換え候補を提示
- 内容がわからないまま会議が進むのを避け、参加者の満足度を向上

3) ターゲットユーザによる 曖昧語辞書の更新



曖昧な表現が苦手と言われる自閉スペクトラム症の社員が働く職場を対象に、実際の会議で利用しながら曖昧表現辞書のブラッシュアップを実施

技術のポイント

- 曖昧表現検知技術による発話者の曖昧な発言の気づきの向上
- 曖昧表現の具体的な置き換え表現提示により発言者自身の曖昧表現訂正の支援
- 就労現場での継続的会議利用と曖昧表現辞書へフィードバックによるシステムブラッシュアップ

この研究がもたらす未来

“曖昧表現検知技術”に加えて、オフィスコミュニケーション共感ナビのプロジェクトではさまざまなコミュニケーションのすれ違いを減らす技術に取り組み、会議満足度の向上をめざします。

出展企業

日本電信電話株式会社

問い合わせ先

rdforum-exhibition@ml.ntt.com